



HospitalとClínicaの違い

Hospital (病院)とClínica (クリニック)の違いはご存知でしょうか？

日本では、病院とクリニックは病床数で定義されます。「20床以上の入院施設を持つ医療機関」が病院で、「19床以下のもの」がクリニックとなっています。例えば、本学のような大きな規模の医療機関が病院、個人で開業している小規模な医療施設はクリニックといった具合です。クリニックは診療所、医院などと同意語です。

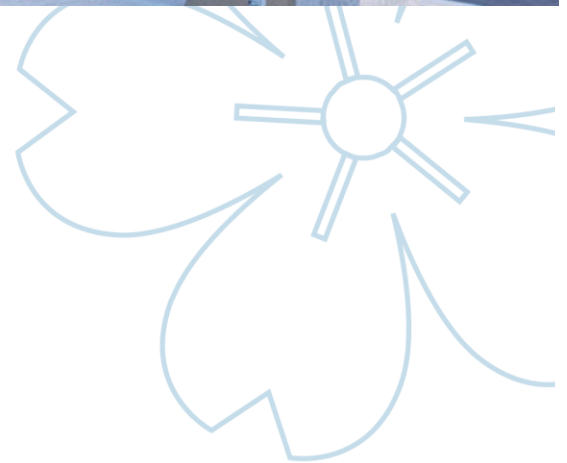
一方、チリを含めた南米での定義は全く異なります。Hospitalは、「公立病院」、Clínicaは「私立病院」を意味します。日本の健康保険は、国民皆保険制度であり、基本的に全国民が希望する医療機関で診療が受けられますが、チリには一部の富裕層が加入する民間保険「ISAPREs」とそれ以外の方が利用する公的保険「FONASA」の主に2種類の健康保険に分けられ、FONASAの患者は公立病院であるHospitalで、ISAPREsの患者は私立病院であるClínicaで診療を受けます。割合としては、国民の70-80%の方がFONASAを利用しています。

十分とは言えない行政からの補助で成り立つHospitalは一般的に設備が悪く、患者も溢れかえり、何年も検査を待たされ、待っている間に患者が亡くなることもしばしばあります。一方で、自由診療のような私立病院は、診療費が非常に高額であるものの充実した設備を備えています。医師の給料に関しても、HospitalとClínicaは雲泥の差で、多くの医師がHospitalとClínicaを掛け持ちしています。人にもよるのですが、Hospitalで地域医療に貢献し、Clínicaで自分や家族のためにお金を稼ぐといった医師が多いように感じます。

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)はFONASAからの予算を使いHospitalで運営しています。設備不良だけでなく、病院職員(看護師や助手も含む)のストライキや、内視鏡検査の歩合がClínicaよりも悪いためにチリ人検査医師がなかなか見つからない、など多くの問題を抱えています。

こうした現状に直面しながら本学はチリの医療に貢献しています。最新の知見や技術を伝えることも勿論重要ですが、我々のように底辺を上げるような活動も、非常に重要なことではないかと思っています。PRENECがチリ全土に広がり、日本同様に、大腸がん検診が国の政策となる日に向かって、拠点員として出来ることを頑張っていきたいと考えています。

小田 柿 智之 消化器病態学分野



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDプログラム	2
PRENECの進捗状況	4
プロジェクトセメスター	6
活動報告	7

ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイント・ディグリー・プログラム（以下JDP）における本学とチリ側の執行部・教員の関係の強化、及びプログラムの詳細を協議するため、本学の北川昌伸医学部長、小嶋一幸教授、植竹宏之教授、荒木昭博准教授、下田弘二学長戦略企画課長、福井美子通訳の6名からなる訪問団が、4月10日から13日までチリを訪れました。

本号ではその様子をお伝えいたします。

本学の訪問団、JDP医学部長会議及び学術委員会へ出席



JDP医学部長会議の様子

4月10日、本学からの訪問団がチリ大学医学部で開催されたJDP医学部長会議に参加しました。チリ大学よりクルジャン医学部長、オライアン教授、フルクサ医師、アウマダ氏、クリニカ・ラスコンデス（以下CLC）よりトレス准教授、ブルディレス教授が出席しました。この会議ではJDPに関する学則や、外部評価委員の設置に向けた双方の外部委員の選出、新たな分野でのJDPの可能性等について協議しました。今後は少なくとも年に1回は、本会議が開催される予定です。

当該会議の後に、JDP学術委員会会議が開催されました。消化器内科及び上部消化管外科の各コースにおける日本とチリ間の臨床教育科目の定義の違いをふまえた話し合いが中心に行われました。

また、これらの会議の最後に北川医学部長がクルジャン医学部長、オライアン教授に本学の客員教授辞令を授与しました。



北川医学部長による客員教授辞令授与の様子



チリ大学側主催の夕食会での記念撮影

CLC、チリ大学附属病院及びエル・サルバドール病院視察

チリ大学臨床実習先となっている、CLC、チリ大学附属病院及びチリ大学の関連病院である エル・サルバドール病院への視察が行われました。CLCでは、内視鏡室と昨年増設された手術室を中心に、チリ大学附属病院では、手術室、集中治療室、内視鏡室、放射線検査室の視察が行われました。エル・サルバドール病院では、施設見学に加え、日本とチリとの医療システムの違いなどに関して、ウリベ教授、ブスタマンテ外科部長、カタン外科サービス長と意見交換をしました。



チリ大学附属病院正面玄関での記念撮影



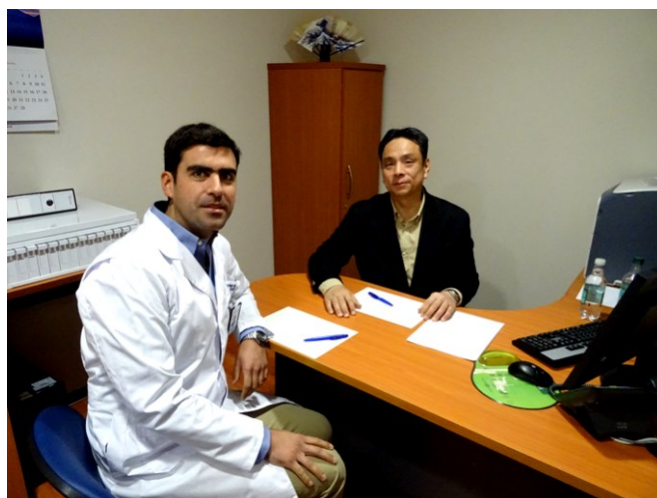
エル・サルバドール病院関係者との意見交換の様子

植竹教授によるJDP学生への指導

大腸肛門外科学コースのJDP一期生であるサモラーノ氏に日本側の指導教員である植竹教授が個人指導を行いました。

臨床実習及び研究論文の進捗状況に関して確認した後、基礎研究演習の一環として、本学からの訪問団に対して、サモラーノ氏が“miRNA DIFFERENTIAL EXPRESSION IN COLORECTAL CANCER CMS4 AS A POTENTIAL PLASMATIC BIOMARKER (大腸がんの予後に関わるmiRNAの解析)”に関する研究発表を英語で行いました。発表後には、訪問団の先生方との質疑応答がありました。

今後、より良い研究が展開されることが期待されます。



サモラーノ氏への個別指導の様子

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(以下iFOBT)を用いた検診プログラムが進行しており、上記3都市に加えて、バルディビア、オソルノの2都市ではiFOBTの登録者数を伸ばしております。

新たに本年4月よりコキンボにおいてはiFOBTの開始、ボリビアにおいてはパイロットプロジェクトへの調印が締結され、6月には、パラグアイにおいてiFOBTが始動、また、新たな国内PRENEC参加候補地としてイキケにおいて啓発活動が行われました。

パラグアイにおけるパイロットプロジェクトの開始



パラグアイ国立がん研究所の看護師ら

パラグアイ保健省、パラグアイ国立がん研究所及びCLCの三者間にて締結された大腸癌早期診断パイロットプロジェクトへの協定に基づき、2017年6月から免疫学的便潜血反応検査が始まりました。

大腸がんの死亡率が増加するパラグアイにおいて大きな前進となりました。

イキケにおける啓発活動

チリ北部に位置するイキケ市はタラパカ州(第1州)の州都で、以前は硝酸塩の輸出港として栄えた都市です。

6月30日、7月1日の2日間にわたり、PRENEC責任者であるロペス医師等がイキケを訪れ、現地の代表であるロメロ医師とともに、大腸がん検診啓発活動を行いました。

期間中に行われたセレモニーでは、ロッシ上院議員が参加しました。

通例に従って、巨大な大腸模型をモール内に展示して一般市民を対象に早期発見・早期治療の大切さを呼びかけました。



イキケ関係者と記念撮影

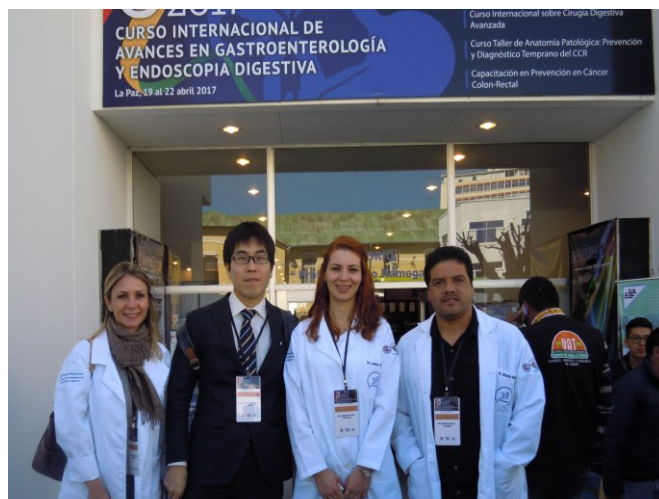
ボリビア出張

本年4月に、PRENEC責任者のロペス医師、ペニャローサ医師、ポンセ看護師とともにLACRCから小田柿助教が、JICA消化器病学及び消化器内視鏡診断アバンスコースに演者として招聘され、ラ・パスの日本・ボリビア消化器疾患研究センター(IGBJ)を訪れました。このコースと同期間に、巨大結腸モデルを用いた大腸がん検診啓発活動が開催され、その際、PRENECのパイロット・プロジェクトに関する協定が正式に締結されました。

また、本コースに招聘された長崎大学の医師ら(平山教授、江口教授、足立助教、小林助教)とともに在ボリビア日本大使館の古賀特命全権大使への表敬訪問を行いました。本出張を通して、長崎大学の先生方とは、国際協力活動に関して意見交換をする機会が多々あり、非常に有意義なものとなりました。



大腸がん啓発活動セレモニーの様子



コースに参加した医師らと記念撮影



長崎大学の医師らと古賀特命全権大使(右より3番目)



巨大結腸モデルを用いた啓発活動の様子

プロジェクトセメスター

本学は、2010年～2014年の間、学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)の目的で、医学科4年生を約4～6カ月に渡ってチリの研究施設に派遣していましたが、この度3年ぶりにチリにおけるプロジェクトセメスターが再開しました。

今年度は2名の学生がチリ大学の研究室に所属し、6月初旬より研究に取り組んでいます。南米という日本と異なる環境下で、研究生活は勿論のこと、チリ人との交流を通して、異文化に触れ、多くのことを感じ、学び、有意義な日々を過ごしてくれることを願って、LACRCはサポートを行ってまいります。

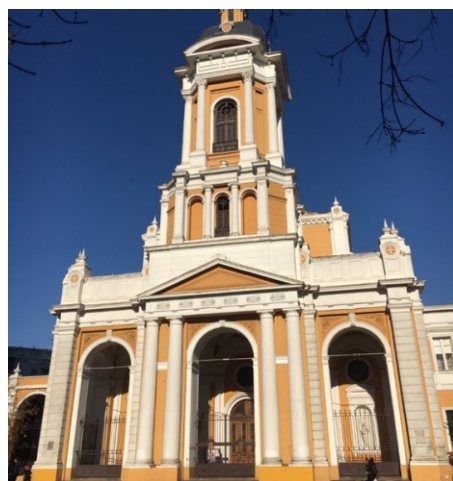
プロジェクトセメスター学生の抱負

小島原知大 チリ大学 腎臓病学研究室所属 『南米よりご挨拶』

こんにちは。5月末よりチリ大学医学部に派遣されております、医学科4年の小島原知大です。チリ生活も1か月経過し、新しい環境にも少しずつ慣れてまいりました。

現在、チリ大学医学部の統合生理学教室で高血圧の新たな病理像について研究しています。私自身のプロジェクトとして立ち上がったテーマであり、手技の練習をしながら仮説の設定、実験の方法までデザインして理論を固めています。手技を行う前に理論を咀嚼することで実験へのビジョンがクリアになっていくことを実感しています。

このような貴重な機会を与えてくださった包括病理学の北川教授、アカデミックにサポートいただいている腎臓内科学の内田教授、公私ともにご支援いただいているLACRCの小田柿助教、早川さん、マルガリータさん、現地での交友関係を築いていただいた歴代チリ派遣の先輩方、関わっているすべての方への感謝を忘れずに留学後により報告をいたしますので、日本の裏側へのご声援よろしく申し上げます。



休みの日にはカメラ片手に散歩(デビナ協会)

鈴木圭人 チリ大学 感染症学研究室所属 『チリ生活への抱負』

今年度チリ派遣学生の鈴木圭人と申します。日本とはまるで違う文化圏での生活がスタートし、早くも一ヶ月が経とうとしています。教科書とは聞こえ方が全く違うスペイン語にもサンティアゴの生活にも少しずつ慣れて来ました。

現在、私はチリ大学医学部小児感染症学Miguel O'Ryan先生の研究室に所属させていただいています。研究テーマはノロウイルスとロタウイルスの小児感染です。11月までの留学期間でしっかりと研究のいろはを身につけられるようにと、O'Ryan先生はじめMedical Technicianの方や看護師の方、先輩方が手厚くサポートしていただき、研究プロトコルの立案段階から唾液試料を実際に病院で集め、実際にラボで作業をし、最後に統計分析を行うまでの流れを全て自分でやらせていただけたことになりました。現在は地道に先行研究を調べ、背景知識を整理し、プロトコルを立案している段階ですが、間もなく、実際にラボでの作業が始まる予定なので、とても楽しみです。

本学、チリ大学をはじめ、今回の留学は本当にたくさんの方にサポートいただいています。この素晴らしい機会を全力で走り抜けたと思います。



写真は通っている研究室。サッカーの試合があれば研究室でも観戦するのがチリストイルです。

LACRC活動報告

胃がん検診プロジェクトへの参加

本年5月から8週間にわたりチリの南部、ヌエバインペリアルという都市で、アメリカ国立がん研究所(NCI)の協力の下、チリ内視鏡学会主催で、上部消化管スクリーニング(胃がん検診)に関する臨床研究が行われました。

チリの地方都市では、不十分な設備や内視鏡医師不足が原因で、内視鏡検査は数年待ちの状況です。今回のプロジェクトでは最初の6週間は待機患者を無くすことが目的で、最後の2週間は、ピロリ菌検査等で選定された胃がんハイリスク患者を中心に検査を行いました。チリ人検査医師への指導医として、九州大学の森山医師、神戸大学の石田医師、スペイン人のパラ医師、ウルグアイ人のゴンザレス医師とともに、LACRCから小田柿助教が招聘されました。

PRENECでの活動のみならず、こういった活動を通して、チリの医療に貢献していければと思います。



小田柿助教による内視鏡指導の様子



プロジェクト関係者とともに記念撮影



神戸大学より招聘された石田医師と記念撮影



九州大学より招聘された森山医師(右から2番目)と記念撮影

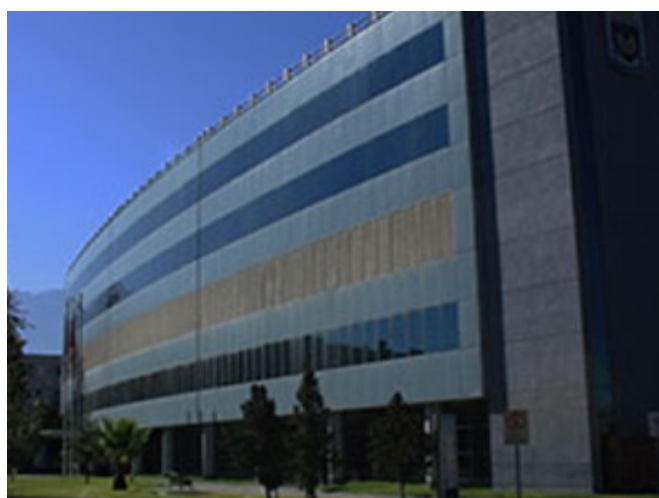
チリ空軍病院見学

5月22日、本年3月～5月にPRENECの大腸内視鏡トレーニングに参加していたセレドン医師から、彼の所属するサンティアゴ市内公立病院Hospital FACH (チリ空軍病院) に小田柿助教が招待されました。同院の消化器科医師や内視鏡室のスタッフ、マジョール大学の学生等を対象に、「PRENECにおける日本人医師の役割」「大腸内視鏡検査」に関する発表を行いました。

発表後は、内視鏡室や手術室などの施設見学を行い、スタッフらとの交流を深めました。



セレドン医師(写真右)と病院関係者と記念撮影



チリ空軍病院外観

編集後記

初めまして。バルハ・マルガリータと申します。チリ拠点で秘書・事務業務コーディネーターとして3月から務めております。前任のハイメさんと同じで、サンチアゴ大学で英日西を勉強致しました。

以前は、チリに拠点を置く日本総合商社で秘書として2年半位働いておりました。分野は違いますがLACRCでの様々な活動を通して日々学んでおります。

何かありましたら是非ご連絡ください。喜んでお手伝いさせていただきます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 26, June 2017

[発行日] 2017年6月30日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp